

令和5年度（2023年度）各級公認審判員の目標



（公財）日本ハンドボール協会 審判本部

審判員に対し JHA / 連盟 / ブロック / 都道府県協会審判委員会が、共通の目標を持ち、一貫した指導をすることが必要である。

国内の審判員の多くは都道府県レベルの D 級審判員である。また各ブロック、全日本大会等で積極的に審判活動に関わっている者の多くは A 級および B 級審判員である。そのため、指導の方向としては審判員として、まず、国内最高峰である「A 級審判員」、および全日本大会を担当できる「B 級審判員」のそれぞれの目標を示す。B 級・C 級・D 級審判員がその次の目標を達成することができるように指導助言にあたるのが重要になる。

審判技術の向上には以下の4つの要素が不可欠となる。 **※審判員の心得 10 箇条**

- 1) ハンドボールに携わるものとしての人間性
- 2) 競技規則の理解と正しい運用
- 3) 審判員としての技術
- 4) アスリートとして必要な体力

この4つの要素を各級審判員の目標の中に反映させ、指導助言にあたる。

1 A 級審判員の目標

A 級審判員の目標を「適切な位置取りと任務分担（対角線式審判法）によって、事実を正しく見極め、的確な判定で、試合を円滑に進めることを追究する」とする。その目標を達成するために

- ① 「レフェリー評価における着眼点」についてその項目の意味を熟知し、
 - ハンドボール競技の特徴をおよび競技規則の解釈と適用を理解した上で、行うべきこと、観察すべきことを適切に実践する。
 - 試合の流れやプレーの展開の予期・予測による実践と、審判員としての任務の遂行に努める。
- ② 瞬発力、スピード・反応性の強化を図り、持久力と的確な判断力の向上に努める。
- ③ **国内最高峰の大会である、日本リーグ・日本選手権さらには日本協会指名レフェリーとして、人間性を発揮し、よき模範として大会審判長・副審判長を補佐する。**

2 B 級審判員の目標

B 級審判員の目標を「競技規則を理解し、正しく運用することによって、試合を円滑に進めることを追究する」とする。

その目標を達成するために

- ① 競技規則試験において A 級審判合格ラインの 85%以上の正答率
- ② B 級審判員の目標に記載されている各項目を熟知し、
 - ハンドボール競技、競技規則、審判員の役割など基本的な知識を理解する。
 - 競技規則に従って試合を運営することと、試合を運営するための基本となる技術の習得と実践。
判断基準を踏まえた説明ができるようになること。
- ③ フィジカルに対する基本姿勢を身につける。持久力をつける。
 - 体力テスト（シャトルランテスト）で男子77、女子67の基準をクリアする。
- ④ 大会運営に関わる知識を身につけ、審判長（大会、各都道府県等）、競技委員長の役割や任務を理解し協力する。

3 都道府県、ブロックにおける指導について

C級およびD級審判員への指導指針

上記のA級・B級の審判員の目標に対する取り組みを踏まえ、C級およびD級審判員には特に、

- ① 競技規則に従って試合を進めるための「競技規則の理解」を深めさせる。
 - 競技規則問題集を用いての座学、ビデオテスト、各種プレゼンを用いたアイトレーニングを各都道府県・ブロックにおいて積極的に実践する。
 - 例) 競技規則問題集から基本的な問題を抜粋し、**競技規則試験において80%以上の正答率(B級審査合格基準)**。
 - 映像資料も分かりやすいものを抜粋する。
- ② 競技規則に従って試合を進めるための笛の吹き方やのジェスチャーの示し方、基本走法の定着を図る。
- ③ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養う。
- ④ 試合中は失敗を恐れず、競技規則に基づいて自分が判断したように、自信をもって判定できるように助言する。
 - 例) 7mスローが必要かどうか悩むなら判定する。
 - 罰則が必要なら判定する(警告か即座に2分間の退場なのかの判断に悩んでも、どちらかは判定できるようにする)。
 - ※起きた事象に反応、判定する(C級に向かって精度を高めていく)。
- ⑤ 基本的な事項を教える。
 - 例) 笛が必要な場面、CRとGRのポジションと役割分担の基本
- ⑥ 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養うようにする。
- ⑦ ハンドボールに関わる人々からの情報を得て、「ハンドボール競技」に関する理解を深めるようにする。
- ⑧ 公認審判員としての心構えを教える。
 - 例) 服装、試合の準備の仕方など
- ⑨ 体力テストにおいて、B級審判員の合格ラインである、シャトルランテスト(男子77、女子66)の基準をクリアする。

4 審判指導の基本として

「審判員の倫理綱領」を熟知させ、

- ハンドボールに関わるだけでなく、一般社会における「社会道徳」や「社会規範」について知り、実践する態度を養えるようにする。またハンドボール(審判活動)を通して見聞を広げ、広い視野をもって全日本大会・国際試合で活躍できる人材となれるよう育成する。
- 審判員としての活動によって、「**審判技術の向上**」を図るだけでなく、「**人間性の向上**」が図れるようにする。またハンドボールファミリーの一員として「仲間を尊重」し、互いを認め合うために必要なコミュニケーション力が向上するよう育成する。
- 「教わるという姿勢」を持つことは当然であるが、「自分からチャレンジして発見し学ぶという姿勢」を持って、審判活動だけでなく、「ハンドボール」に関わっていけるようにする。また「仲間と競い合う」ことによって、他者の良い面を発見し、認めあいながら成長できるよう育成する。

令和5年度（2023年度）A級公認審判員の目標



全日本大会の審判員を担当することができるのはA級、B級の審判員である。その中で特にA級審判員には下記の点において期待したい。

- ① 全日本大会のみならず、日本リーグおよび日本選手権へのノミネートを目標に、さらには日本協会指名レフェリーとして認められ、各種大会での模範レフェリーとして活躍する。
- ② 「審判員の心得10箇条」を熟知し、人間性を発揮し、大会審判長、副審判長を補佐して、審判団のよきリーダーとして活躍する。
- ③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと、事実を正しく見極め、適切な判断基準を元に、的確な判定を下し、TOやオフィシャル、チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。
- ④ ハンドボール競技の特徴を理解した上で、試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に（公財）日本ハンドボール協会審判本部作成の「レフェリー評価票」をもとに、A級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理・ 運営（モダン ハンドボール の理解）	レフェリーとしての 要素・全体的印象	試合に関する的確な態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失ってはいないか。	○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手・役員とのコミ ュニケーション	姿勢は正しいか。 「穏やかに」重大な判定を下し、「明確に」チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、ボディランゲージや口頭による説明ができてきているか（怒らせる・失礼である・傲慢である・親切過ぎる）。	○レフェリーの人間性 ○丁寧な指示と運営 ○TO、オフィシャルとの連携 ○チーム役員、選手との関係作り
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 双方にバランスのとれた判定に心がけているか。 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。	○コミュニケーションのバランス ○判定のバランス ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク（オフィシャルを含めて）	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。	○目に見えるコンタクトの雰囲気 ○通信機器の活用
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。	○領域分担と判定者が一致しているか
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。侵していることに気づいているか。	○ゴールエリアライン間際の責任領域はゴールレフェリーである
(3) ゲームの 観察	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかなる得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 不必要な笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。	○3歩、3秒の保障 ○不要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(4) 1対1の 局面	罰則 8:4にある即座に2 分間退場への準備	各種罰則を適用すべき判断基準を理解しているか。 許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレー の区別ができていないか。 第8条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当 か。	○即座に2分間退場とすべきプレー を適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了前30秒間の集中
	チームに基準が理解 されているか	罰則の有無の判断基準が適切か。 罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後のボディールランゲージ ○プレーヤーへの基準の伝え方
	ハリウッドアクション の見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含め た、適切な処置ができていないか。	○大きな声、影響と倒れ方の関係 ○心の準備
(5) 攻撃側の 違反	ボールを持ったプレ ーヤーの違反	攻撃側の違反を判定すべき判断基準を理解してい るか。 違反を見逃していないか、探していないか。 正しいブロック/ 不正なブロック 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多 くないか
	ボールを持たないプレ ーヤーの違反		○ゴールレフェリーがボールばかり 追っていないか
	正しいブロック/ 不正なブロック		○接触・違反のスタートの見極め
(6) 7mスロー	明らかな得点チャン スの見極め	適切に7mスローを与えているか。 明らかな得点チャンスの判断基準を理解してい るか。	○防御側プレーヤーの位置観察がで きていないか
	ゴールエリア侵入と 影響の見極め	明らかな得点チャンスでないものに7mスローを与 えていないか。	○押し込まれたのエリア侵入を見極 めているか
	ボールを所持してい ない明らかなチャン ス	GK不在の状況での明らかな得点チャンスの見極め。	○違反がなければ明らかな得点チャ ンスになるプレーへの心の準備
(7) 違反	ステップ・ダブルドリ ブル・オーバータ イム・明らかな着地 シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュート した場合は、7mスローに戻しているか。	○ステップ2歩+2歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の 見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処 置
	各種スローの判定と 適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレーヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8) 時間の管理 (モダンハン ドボールの理 解)	パッシブプレーの予 告合図のタイミング	適切な判断基準のもとで予告合図のタイミングは適 切か。	○選手交代、各種スローの実施の遅 延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの 判定	違反を判定するタイミング、および判断基準は適切 か。	○ボールを持ったプレーヤーがゴール に向かっていない状況で違反の笛を 吹かない
	的確なタイムアウト・ 不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えすぎていないか。 タイミングが遅すぎていないか。	○タイムアウトを取らなければなら ない場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り・ 笛をどこで吹くか	2人の死角はないか。 攻撃側と防御側の「間」を観察しようとしている か。 プレーヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担が臨機 応変 ○レフェリーの基本走法 ○7mスロー時の観察位置
	明確なジェスチャー ・笛の音	判断基準を適切に説明できる明確なボディールランゲ ージを用いているか。 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か(強弱、長短、軟硬の使い分け)。	○罰則、7mスロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり、十分な体力を有してい るか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる

令和5年度（2023年度）B級公認審判員の目標



B級審判員より全日本大会への参加資格が与えられる。国内のトップチームの試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を習得することが必須である。

以下にB級審判員が習得すべき事項について記載する。コート上で1人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは、ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り、両レフェリーは様々な状況に関する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

<試合前>

- 1) トスには指定された時間に両レフェリー、TO が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 2) ユニホームの確認は、必ずTOと協力し行う。色やデザインが判別し難いものは着用させない。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。相手コートプレイヤーの色とチーム役員の色とが重複しないように呼びかける。また、プレイヤーの装具についても規定にあっているかどうか、TOと協力し、観察しておく。
- 3) ゴールやゴールネット、ボールなどの点検は前もって（選手紹介や選手の確認の前）行い競技開始直前に行わない。
- 4) オフィシャル席の仕事を理解し、シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認、および機器の操作の確認を行うこと。

<試合開始時>

- 5) 競技の開始時刻を守る。（早く始めない）早めに選手紹介等が終了したとしても、開始時刻が定刻となるようにTD、両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

<試合中>

○ 得点の管理、時間の管理

- 6) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理(タイムアウト)は1試合を通して同一の基準で、公平かつ平等に競技規則に則って処理する。どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 7) コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。
- 8) 得点合図の後、ゴールの後ろを通過して、決して2人の位置を交代しない。ただし、ノーゴールキーパーの状況を除く。
- 9) バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 10) 走りながら、あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後その直後の選手、ボールの動きを必ず確認し、次の行動へ移る。
- 11) ゴールレフェリーは、コート内に立たないことを基本とし、展開に応じて前後左右に移動する。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立ち、素早く移動し、シュートの軌道とGKの動きが正しく観察出来る位置をとる。
- 13) CP 7名の状況で、GKとCPの交代の妨げにならないような位置取りを。

○ 判定の手順、ジェスチャー

- 14) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー ④ボディランゲージ
- 15) 正しいジェスチャーを用い、余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

○ 立ち居振る舞い

- 16) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま、プレーを観察することがないように。
- 17) コート上で腕組み、両手を腰に当てる、ポケットに手を入れる、休めの姿勢など論外。
- 18) 「穏やかに」判定を下し、全力で違反したプレーヤーやポイントへ駆け寄らない。

○ 役割分担

- 19) **ピボットプレーヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。**
- 20) **ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定する。**
- 21) 領域分担を明確にし、ペアのレフェリーの近くで起こっているプレーに対して、遠い位置から判定をしない。

○ 競技規則の正しい運用

- 22) **警告、退場を判定する際は、その理由をボディランゲージで大きく示す（何度もやらない）。**
- 23) **競技規則に則った「判断基準」のもとに判定を下す。「判断基準」をもとに説明ができる。**
- 24) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 25) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認する。



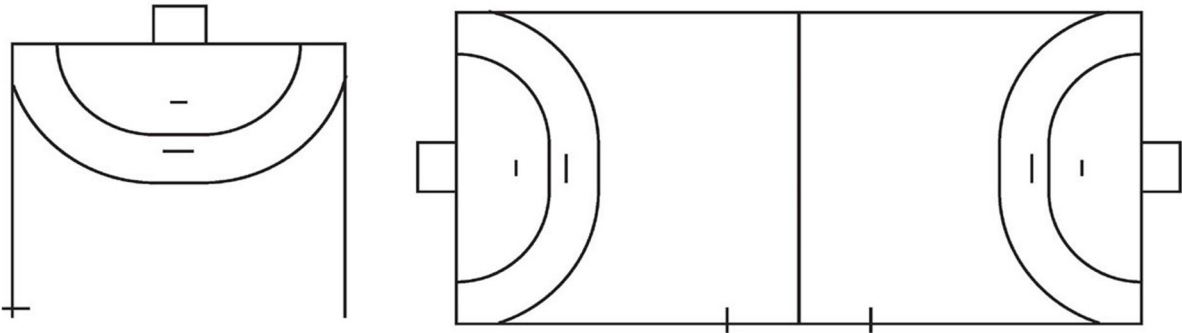
＜ B 級公認審判員チェックリスト ＞

試合前、確認チェック	特に課題とする項目に○	終了後、できた項目に☑
------------	-------------	-------------

◆ 試合前			
1) 両レフェリー、TD が立ち合いのもとトスを実施			
2) メンバー表、登録証の確認			
3) ユニホームの確認（濃淡・デザインがはっきりしたもの：チーム同士、レフェリーウェアとチーム）			
4) チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレーヤーと重複していないか）			
5) プレーヤーの装具は、規定に沿ったものかどうかを観察			
6) ゴールやゴールネット、ボールの点検（事前に）			
7) オフィシャルとの連携（業務の確認、機器操作・動作の確認）			
◆ 試合開始前			
8) 定刻でのスローオフか			
◆ 試合中			
得点の管理、時間の管理			
9) 得点の管理は出来ているか（得点のたびに確認しているか）			
10) 時間の管理（タイムアウト）は競技規則に則って処理できているか			
11) 時間の管理はできているか（目視による公示時計の動作確認）			
走法と位置取り			
12) コート上の選手とボールから目を離していないか			
13) 得点合図の後に、位置の交代をしていないか			
14) ゴールレフェリーへの移動時：バックステップで移動していないか			
15) 走りながら、あるいは選手に背を向けて方向指示やゼスチャーをしていないか			
16) ゴールレフェリー時：同じ場所に立ち続けているか（展開に応じて左右に移動）			
17) 7 m スローの際のコートレフェリー：スローアの利き腕側・GK を観察できる位置にいるか			
18) GK 不在時の攻撃（6 人 or 7 人）で、レフェリーの位置どりは交代の妨げとなっていないか			
判定の手順、ゼスチャー			
19) ① 笛 ② 方向指示 ③（必要に応じ）ゼスチャー の判定の手順を守っているか			
20) 正しいゼスチャーを用いているか			
立ち居振る舞い			
21) ペアで同じ種類の笛を使用しているか			
22) 笛を口にくわえたまま観察していないか			
23) コート上での立ち姿はどうか（ポケットに手を入れる、休めの姿勢になっていないか）			
24) 「穏やかに」判定しているか（罰則を出しに行く、ポイントへ行く際、全力で駆け寄っていないか）			
役割分担			
25) ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか			
26) ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定しているか			
27) ペアでの領域分担は明確か（相方の近くで起きたプレーを遠い位置から判定していないか）			
28) 25)、26)、27)について、通信機器を有効に活用できているか			
競技規則の正しい理解			
29) 警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか			
30) 競技規則に則った「判定基準」のもと、判定をしているか			
31) 判定をする際、「判定基準」を用いて説明することができるか			
32) 差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか			
◆ 試合終了後			
33) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認したか			

時 間	状 況

コメント：反省点・次回への課題 など



所属		氏名	
-----------	--	-----------	--

令和5年度（2023年度）C級公認審判員の目標



C級審判員は、公式試合（ブロック大会レベル）への参加資格が与えられる。ブロック大会は、各都道府県の代表チームの対戦であり、また全国大会の予選会である場合がほとんどである。

そのような公式試合を担当するためには、競技規則に則って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を十分理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において8割以上の正答率（B級審判員認定に必要）が求められる。

以下にC級審判員が十分理解し、実践すべき事項について記載する。

<大会への参加>

- 1) 審判会議、代表者会議に出席し、その大会における申し合わせ事項などの共通認識を図る。
出席にあたっては、ブレザー・ネクタイを着用する（本協会制定のものを推奨する）。
- 2) 大会審判員としての自覚を持つこと。所属都道府県の応援をしたり、他のレフェリーの批判をしたりするのは慎む。観衆、チーム関係者に見られていることを忘れない。

<試合開始時>

- 3) トスには指定された時間に両レフェリー・TDが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうかを確認する。
- 4) ユニホームの確認をTDと共にする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服装についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○ 得点の管理，時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理は試合開始時，タイムアウト時，再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 11) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。
GRへの移動時，バックステップ走法は動きが遅く，非常に危険を伴うため用いない。
- 12) 7mスローの際，コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立ち、**素早く移動し，シュートの軌道とGKの動きが正しく観察出来る位置をとる。**

○ 判定の手順，ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 14) 2人のレフェリーは，同じ種類の笛を使用する。長い時間，笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま，プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 15) **ゴールエリアライン際の判定は，すべてゴールレフェリーが判定する。**
16) **ピボットプレイヤーの観察は，コートレフェリー，ゴールレフェリーで連携する。**

○ 競技規則の正しい運用

- 17) **警告，退場を判定した際は，その理由をボディランゲージで大きく示す。**
18) 指し違えたときは，必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 19) 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして，公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 20) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。



＜ C 級公認審判員チェックリスト ＞

試合前、確認チェック	特に課題とする項目に○	終了後、できた項目に☑
------------	-------------	-------------

◆大会への参加			
<input type="radio"/>	審判会議、代表者会議に参加し、申し合わせ事項等の共通理解を図る		
<input type="radio"/>	大会審判員としての自覚を持つこと。常に見られていることを忘れないこと		
◆試合前			
	1)両レフェリー、TD が立ち合いのもとトスを実施		
	2)メンバー表、登録証、(試合開始前の) 公式記録用紙の確認		
	3)ユニホームの確認 (濃淡・デザインがはっきりしたもの：チーム同士、レフェリーウェアとチーム)		
	4)チーム役員のウェアの確認 (相手チームのコートプレーヤーと重複していないか)		
	5)ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う		
	6)ゴールやゴールネット、ボールの点検 (事前に)		
	7)オフィシャルとの連携 (業務の確認、得点、罰則、時間の管理について)		
◆試合開始前			
	8)メンバーチェックを登録証とともに進行		
	9)選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶		
◆試合中			
得点の管理、時間の管理			
	10)得点の管理は出来ているか (得点のたびに確認しているか)		
	11)目視による公示時計の動作確認 (どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に)		
走法と位置取り			
	12)基本的な立ち位置や動きを意識しているか		
	13)コートレフェリー時：判定の後に素早くポイントに移動しているか		
	14)ゴールレフェリーへの移動時：バックステップを用いることなく移動しているか		
	15)7 m スローの際のコートレフェリー：スローの利き腕側・GK を観察できる位置にいるか		
判定の手順、ゼスチャー			
	16)①笛 ②方向指示 ③ (必要に応じ) ゼスチャー の判定の手順を守っているか		
	17)正しいゼスチャーを用いているか		
立ち居振る舞い			
	18)ペアで同じ種類の笛を使用しているか		
	19)笛を口にくわえたまま、プレーを観察していないか		
役割分担			
	20)ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか		
	21)ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定しているか		
	22) 20)、21)について、通信機器を有効に活用できているか		
競技規則の正しい理解			
	23)警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか		
	24)差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか		
◆試合終了後			
	25)両チーム役員やオフィシャルと挨拶		
	26)公式記録用紙に正しく記入されているか確認後、サイン		
	27)大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める		
	28)審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする		

令和 5 年度（2023 年度）D 級公認審判員の目標



D 級審判員は、公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。公式試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営こと、および試合を運営するための基本となる技術を理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において 6 割以上の正答率（C 級審判員認定に必要）が求められる。

以下に D 級審判員が公認審判員として理解し、実践すべき事項について記載する。

<試合前>

- 1) 遅くとも、試合開始時刻の 1 時間前までに会場に到着できるように移動する。
- 2) 大会本部に挨拶をし、控室にて更衣をするなど準備をする。
- 3) トスには指定された時間に両レフェリー、TD が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○ 得点の管理、時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 1 1) CR と GR の基本的な立ち位置や動きを意識する。
CR は判定の後にポイントに素早く移動する。
GR への移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 1 2) 7m スローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立ち、**素早く移動し、シュートの軌道と GK の動きが正しく観察出来る位置をとる。**

○ 判定の手順、ジェスチャー

- 1 3) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 1 4) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 1 5) **ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定する。**
- 1 6) **ピボットプレイヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。**

○ 競技規則の正しい運用

- 1 7) **警告、退場を判定する際は、その理由をボディランゲージで大きく示す。**
- 1 8) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り 2 人で協議する。

<試合終了後>

- 1 9) 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 2 0) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。



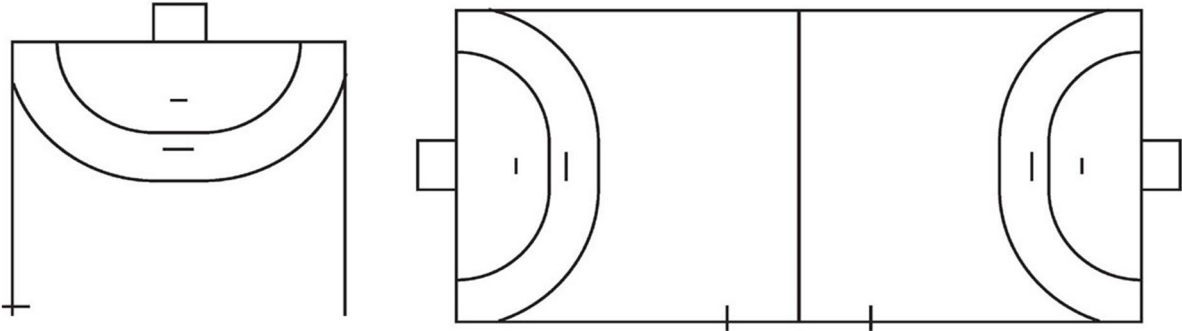
< D 級公認審判員チェックリスト >

試合前、確認チェック	特に課題とする項目に○	終了後、できた項目に☑
------------	-------------	-------------

◆ 試合前			
1)遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着			
2)会場に着いたら大会本部に挨拶し、控室にて準備（更衣、ストレッチなど）			
3)指定された時間に、両レフェリー、TO が立ち合いのもとトスを実施			
4)メンバー表、登録証、（試合開始前の）公式記録用紙の確認			
5)ユニホームの確認（濃淡・デザインがはっきりしたもの：チーム同士、レフェリーウェアとチーム）			
6)チーム役員のウェアの確認（相手チームのコートプレイヤーと重複していないか）			
7)ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う			
8)ゴールやゴールネット、ボールの点検（事前に）			
9)オフィシャルとの連携（業務の確認、得点、罰則、時間の管理について）			
◆ 試合開始前			
10)メンバーチェックを登録証とともにを行う			
11)選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
◆ 試合中			
得点の管理、時間の管理			
12)得点の管理は出来ているか（得点のたびに確認しているか）			
13)目視による公示時計の動作確認（どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に）			
走法と位置取り			
14)基本的な立ち位置や動きを意識しているか			
15)コートレフェリー時：判定の後に素早くポイントに移動しているか			
16)ゴールレフェリーへの移動時：バックステップを用いることなく移動しているか			
17)7m スローの際のコートレフェリー：スローアの利き腕側・GK を観察できる位置にいるか			
判定の手順、ゼスチャー			
18)①笛 ②方向指示 ③（必要に応じ）ゼスチャー の判定の手順を守っているか			
19)正しいゼスチャーを用いているか			
立ち居振る舞い			
20)ペアで同じ種類の笛を使用しているか			
21)笛を口にくわえたまま、プレーを観察していないか			
役割分担			
22)ピボットプレイヤーと防御プレイヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか			
23)ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定しているか			
24) 22)、23)について、通信機器を有効に活用できているか			
競技規則の正しい理解			
25)警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか			
26)差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか			
◆ 試合終了後			
27)両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
28)公式記録用紙に正しく記入されているか確認後、サイン			
29)大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める			
30)審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする			

時 間	状 況

コメント：反省点・次回への課題 など



所属		氏名	
-----------	--	-----------	--